

【特許請求の範囲】

【請求項1】 座部並びに背もたれ部をシート材を張設して構成するシート張設タイプの椅子において、脚部の上部に形成される座部空間に座部用シート材をほぼ水平に張設し、この座部空間と脚部の後端部に立設される背もたれ部材間に形成される背もたれ部空間に座部用シート材を張設し、少なくとも前記座部用シート材の前端とこの背もたれ用シート材の前端とを止着若しくは連設して座部用シート材の前端部と背もたれ用シート材の前端部とを重合状態に配設し、この重合部分から背もたれ部空間に向けてやや弛みを持たせて立ち上がり傾斜状態に背もたれ用シート材を配設したことを特徴とする椅子。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本考案は、座部並びに背もたれ部をシート材を張設して構成するシート張設タイプの椅子に関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来、単に脚部の上部に形成される座部空間と、脚部の後端部に立設される背もたれ部材間に形成される背もたれ空間に、夫々個別にシート材を張設して座部と背もたれ部とを形成したものは公知である。

【0003】このようなシート張設タイプの椅子は携帯用の折り畳み椅子に採用されているが、上述のように単にシート材を張設した構成では、シートの張設保持強度に劣るだけではなく、たとえシートに余裕を持たせてやや弛ませてシートを張設してもなお座り心地が悪い。

【0004】本発明はこのような問題点を解決しシート張設保持強度が強く、しかも座り心地が著しく向上する椅子を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】添付図面を参照して本発明の要旨を説明する。

【0006】座部1並びに背もたれ部2をシート材3を張設して構成するシート張設タイプの椅子において、脚部4の上部に形成される座部空間に座部用シート材3Aをほぼ水平に張設し、この座部空間と脚部の後端部に立設される背もたれ部材5間に形成される背もたれ部空間に座部用シート材3Bを張設し、少なくとも前記座部用シート材3Aの前端とこの背もたれ用シート材3Bの前端とを止着若しくは連設して座部用シート材3Aの前端部と背もたれ用シート材3Bの前端部とを重合状態に配設し、この重合部分から背もたれ部空間に向けてやや弛みを持たせて立ち上がり傾斜状態に背もたれ用シート材3Bを配設したことを特徴とする椅子に係るものである。

【0007】

【作用】座部用シート材3Aと背もたれ用シート材3Bとはその前端部、即ち腰を乗せ荷重が大きくかかる部分

において重合状態に張設されることとなり、シート材3の張設保持強度が向上することとなる。

【0008】また、腰の奥から背中にかけては、座部用シート材3Aとの重合部分から除々に離脱し、立ち上がり傾斜状態に配される背もたれ用シート材3Bにより支承され、しかもこの座部用シート材3Aはやや弛みを有しているため、腰の奥から背中にかけての体面になじむように（ソフト）に支承することとなるため、多少腰を奥にして深く座っても、浅く座っても腰から背中までソフトに支承され、非常に座り心地が向上することとなる。

【0009】

【実施例】本実施例は、折り畳み式の椅子に本発明を適用したものである。

【0010】脚部1は前後左右に配する四本のパイプ製の脚杆6を立設して構成している。

また、この各脚杆6間に、交差部を枢着したX状棧杆7を架設し、各脚杆6の下端部に被嵌した固定取付部8に各X状棧杆7の下端部を枢着し、各脚杆6の上部に脚杆6に沿って上下スライド自在に被嵌したスライド取付部9に各脚杆6の上端部を枢着し、収納に際しては各脚杆6を中央に寄せながら各X状棧杆7の上下端の開き角度を開いて行き、中央に集束状態に置めるように構成している。

【0011】本実施例では、前後左右の脚杆6を腰掛け高さより長く構成して、各脚杆6間に座部空間を形成し、この後部の脚杆6を背もたれ部材5とし、この後部の脚杆6間に背もたれ空間を形成している。

【0012】この座部空間及び背もたれ空間に張設するシート材3（座部用シート材3Aと背もたれ用シート材3B）を本実施例では一枚の布製シートで形成している。

【0013】即ち、この布製シートの座部用シート材3A部分を座部空間にやや弛みを持たせて張設し、前端を上側へ折り返し重合し、座部空間の前端から中央更には後部側寄りまでの範囲の端部を縫着して完全に重合止着し、この重合部分より折り返したこの布製シートの背もたれシート材3B部分をやや弛みを持たせて立ち上がり傾斜させて下側の座部用シート材3A部分より除々に離脱するようにして、その上部を背もたれ部材5に止着している。

【0014】具体的な止着手段は座部用シート材3A部分（前端側においては背もたれ用シート材3B部分の前端が重合している。）となる各四隅に脚杆6に挿通する挿通孔10を形成し、この内縁には保持リング11（グロメット）を付設し、この挿通孔10を脚杆6に通し、前記スライド取付部9上に係止して座部空間に張設し、背もたれ用シート材3Bの上部は、後側面に形成したスリーブ部12に後部の脚杆6（背もたれ部材5）を差し込み係止している。従って、脚部4を集束状態に置めると共に、

3

シート材3も抜き外して畳めることができる。

【0015】また、本実施例では、背もたれ用シート材3Bの上端正面側左右に布製带状部材13の基部を縫着し、図6に示すように、その前端部を止金具14に係止し、この止金具14を前側の脚杆6の上端に回転自在に嵌合して、布製带状部材13を左右の前後脚杆6間にやや弛ませた状態で架設し、ひじ掛け部を形成している。

【0016】本実施例では、この带状部材13に商品名や商標名などの模様を表示してデザイン効果を高めている。

【0017】また、本実施例においては、前記X状栈杆7の栈杆を図5に示すような中央が膨出した中空状の膨出突条を有する変形パイプ状に形成し、材料を20%節約すると共に強度を約5倍に高めている。

【0018】尚、本実施例に限らず、別体の座部用シート材3Aと背もたれ用シート材3Bとの前端部を重合させても良いし、前端のみを止着して座部用シート材3Aに重合する背もたれ用シート材3Bが除々に離脱する構成としても良い。

【0019】

4

【発明の効果】本考案は上述のように構成したから、シート張設保持強度が向上して、しかも座り心地が著しく向上する椅子となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例の斜視図である。

【図2】本実施例の側面図である。

【図3】本実施例の分解斜視図である。

【図4】本実施例の収納状態の斜視図である。

【図5】本実施例のX状栈杆の栈杆断面図である。

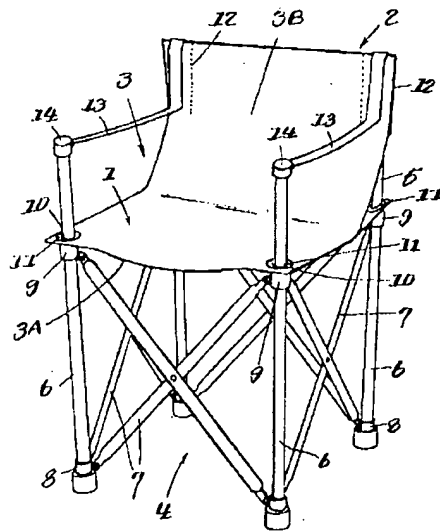
10 【図6】本実施例の布製带状部材と脚杆との連結部の拡大断面図である。

【符号の説明】

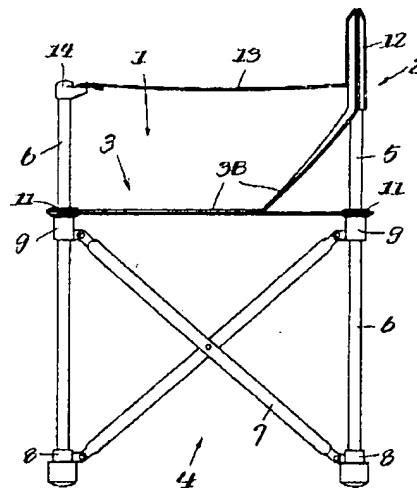
- 1 座部
- 2 背もたれ部
- 3 シート材
- 3A 座部用シート材
- 3B 座部用シート材
- 4 脚部
- 5 背もたれ部材

20

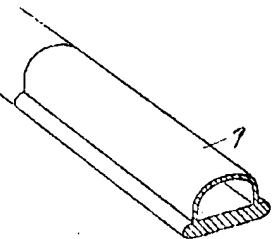
【図1】



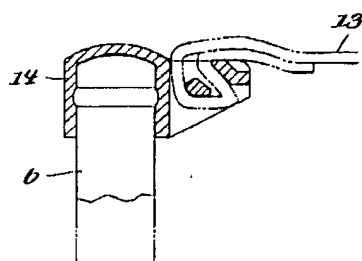
【図2】



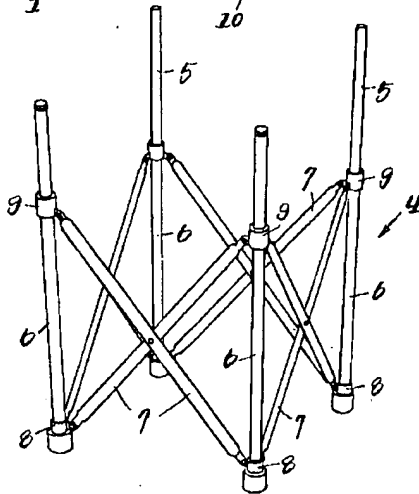
【図5】



【図6】



【図3】



【図4】

